

令和6年度

研究集録

第62号

書

埼玉県連合教育研究会
埼玉県書写教育研究会

目 次

あいさつ	会 長 大 澤 美和子	2
埼玉県書写教育研究会事業報告（令和6年度の概要）		2
〈埼玉県連合教育研究会研究発表〉		
・「書写教育の充実」を目指した授業の展開		
	蓮田支部 蓮田市立蓮田南中学校 秦 優 人	6
〈埼玉県書写教育研究会研究発表〉		
・水書用筆を活用した書写授業		
	桶川市立加納小学校 二階堂 綾 子	12
・美しい文字の特徴を主体的に捉え、自身の書に生かす指導の工夫		
	桶川市立桶川西中学校 服 部 環 貴	15
・ICTを活用した書写授業の展開		
	狭山市立南小学校 坪 井 和 美	18
・教材提示装置を使った授業の展開		
	狭山市立山王中学校 古 内 和 弘	22
・小学校低学年の水書指導について		
	寄居町立桜沢小学校 和 田 志 織	23
・ICTを活用した書写の学習指導		
	寄居町立男衾小学校 橋 本 遥	24
・はじめての毛筆、指導のくふう		
	寄居町立鉢形小学校 田 島 浩 子	25
・中学校硬筆におけるICT活用について		
	寄居町立寄居中学校 堀 芳 貴	26
・中学校硬筆 ～鑑賞会を通して自分の作品に自信をもたせる～		
	寄居町立城南中学校 大 澤 尚 子	27
・ICTを活用した書写授業の実践		
	寄居町立男衾中学校 山 下 柊 羽	28
埼玉県書写教育研究会役員表		30

書字文化を育む書写教育の推進

埼玉県書写教育研究会長 大澤 美和子
(加須市立大越小学校)

現在、学校現場では、GIGAスクール構想による一人一台端末の活用が日常化し、ICTの積極的活用により新しい学び方が創造されています。世の中は活字文化に溢れ、児童生徒の書字の機会は著しく減少していますが、「書字」は、周りの人や地域社会、歴史や文化等、さまざまなものとの「つながり」を生み出す大切なツールであり、「書字文化」として継承していかなければなりません。「書は人なり」という言葉もあるように、文字は記号ではなく書き手の思いや人物像を伝える伝達ツールでもあります。学習指導要領国語科の書写では、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善や文字文化について触れられており、それらに視点を置いた学びの充実が求められています。そこで、本研究会では、昨年度までの研究に引き続き、研究主題を「書字文化を育む書写教育」とし、さらに研究を深めることとしました。

学習指導要領の趣旨、つまり、「児童生徒が自ら課題を発見し、対話的な解決策を思考しながら文字を書くことを通して深く学ぶ授業」を行う教職員の指導力向上は急務であり、夏季実技研修会や授業研究会を通して、児童生徒が主体的に学ぶ授業作りの工夫や役立つ情報を習得できるようにしています。8月6日(火)の夏季実技研修会では、授業作りの基礎基本の他、小学校低学年における水書用筆を用いた書写指導、書きぞめの指導技術の習得等、実践に結びつく充実した研修を行うことができました。11月28日(木)に蓮田市立蓮田南中学校で開催された授業研究会では、「行書の学習を通して書写生活の充実を図る」ことを目的とした中学1年の授業が行われ、活発な研究協議がなされました。6月の硬筆展覧会、1月の書きぞめ展覧会は、日頃の書写授業の成果を披露する場となっています。どの事業も県内各支部を巡回して行っており、担当地区となった先生方の御協力のおかげで運営されています。

結びに、平素より埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会の皆様に御指導と御協力を賜り、また、各地区の先生方や関係の皆様のお理解と御協力のおかげで、本研究が進められることに深く感謝申し上げます。

書写教育研究会事業報告

(令和6年度の概要)

1. 役員会の概要

- (1) 4月23日(火) 理事会・研究協議会・
総会・講演会

県民活動総合センター

○県硬筆展覧会開催要項・審査規程審議

○講演会演題「文字文化と埼玉県の書写
書道教育」

- (2) 6月4日(火) 常任理事会・開催支部
との協議会

入間市立豊岡小学校

○県硬筆展覧会本部・開催地区協議会

○本部事務分担並びに計画

○県書きぞめ展覧会語句選定

○開催要項案作成

- (3) 6月25日(火) 県硬筆展覧会作品搬入
審査会

入間市立豊岡小学校

○県硬筆展覧会作品搬入審査会

○県書きぞめ展覧会開催要項案審議

- (4) 6月29日(土)・30日(日)

県硬筆展覧会

入間市立豊岡小学校

○6月27日(木) 陳列

○6月29日(土)・30日(日) 作品公開

○7月2日(火) 搬出

- (5) 8月20日(火) 常任理事会

杉戸町立杉戸中学校

○県硬筆展覧会反省

○書きぞめ展覧会準備

- (6) 10月2日(水) 理事会

県民活動総合センター

○県書きぞめ展覧会開催要項・審査規程
審議

- (7) 11月12日(火) 常任理事会

羽生市立岩瀬小学校

○県書きぞめ展覧会本部・開催地区協議会

○県硬筆展覧会語句選定・開催要項案作成

- (8) 1月22日(水) 県書きぞめ展覧会作品
搬入審査会

羽生市民プラザ
○県書きぞめ展覧会作品搬入審査会
(9) 1月25日(土)・26日(日) 県書きぞめ展覧会

○1月24日(金) 陳列
○1月25日(土)・26日(日) 作品公開
○1月28日(火) 搬出
(10) 2月4日(火) 常任理事会
杉戸町立杉戸中学校
○県書きぞめ展覧会反省・
次年度事業計画案作成

2 研究発表会の概要

(1) 小中高等学校書写書道教育研究協議会
県民総合活動センター
○期 日 令和6年4月23日(火)
○講 演
講師 県立総合教育センター 専門指導員
中山 幸男 先生
○演 題
「文字文化と埼玉県の書写書道教育」

3. 研修会の概要

(1) 実技研修会
[さいたま市]
(2) 埼玉県書写教育研究会委嘱授業研究会
[蓮田地区]
(3) 各地区書写実技研修会・授業研究会

4. 展覧会の概要

(1) 第62回 硬筆展覧会
入間市立豊岡小学校
○出品点数
・特別賞 小学校 77点
中学校 36点
・推薦賞 小学校 182点
中学校 82点
・特選賞 小学校 1,041点
中学校 477点
・優良賞 小学校 1,304点
中学校 596点

合 計 3,795点
○課 題 次頁参照

(2) 第77回書きぞめ展覧会

羽生市民プラザ

○出品点数
・特別賞 小学校 34点
中学校 22点
・推薦賞 小学校 81点
中学校 48点
・特選賞 小学校 468点
中学校 284点
・優良賞 小学校 585点
中学校 357点
合 計 1,879点
○課 題 次頁参照

(3) 令和6年度 教職員書道展覧会 [中止]

5. 研究刊行物

(1) 「研究集録」第62号の発行

※令和6年度埼玉県硬筆展覧会課題執筆者

小1 加須市立大越小学校 大澤美和子 先生
小2 所沢市立北野小学校 三上 陽照 先生
小3 幸手市立上高野小学校 中島奈緒子 先生
小4 幸手市立上高野小学校 中島奈緒子 先生
小5 さいたま市立春野小学校 齊藤 裕子 先生
小6 所沢市立北野小学校 三上 陽照 先生
中1 ときがわ町立玉川中学校 福田 英正 先生
中2 杉戸町立杉戸中学校 関根 祐介 先生
中3 杉戸町立杉戸中学校 関根 祐介 先生

※令和7年埼玉県書きぞめ展覧会課題執筆者

小3 さいたま市立春野小学校 齊藤 裕子 先生
小4 さいたま市立春野小学校 齊藤 裕子 先生
小5 ときがわ町立玉川中学校 福田 英正 先生
小6 三郷市立南中学校 檜田はるき 先生
中1 杉戸町立杉戸中学校 関根 祐介 先生
中2 ときがわ町立玉川中学校 福田 英正 先生
中3 所沢市立北野小学校 三上 陽照 先生

令和6年度 硬筆・書きぞめ展覧会課題

第62回硬筆展覧会課題

小三 細谷 ひまり
六月七日(金)
休み時間に、友だちとお
にごっこをしました。た
思いきり走ったので、た
くさんあせをかきました。

小二 石川 ゆたか
一年生とけんを
に学校たんけんを
しました。つないで
手をしました。あ
ん内しました。

小一 ましこ
ゆうや
いか
たこ
あさり

小六 大和 さゆり
俳句は、五七五の十七音の言
葉で表現された、世界で最も短
い詩です。短歌とともに日本の
伝統的な文学で、江戸時代から
現代にいたるまで多くの人たちに
親しまれてきました。

小五 比田みずす
人は、自分が好きなことなら
少くもいつくても続けるこ
とができます。そうするうちに
工夫や研究をするようになり、
ますます好きになるだけでなく
上達していきます。

小四 高橋 真矢
「おはよう」
友達からの
元気なあいさつに
心がはずむ
わたしも伝えよう
気持ちをこめて

中三 佐藤 幸子
――吾十有五にして学に志す――
――論語の有名な言葉である。十五歳は中学の年
と授業で学んだ。なぜ勉強するのか。その答えが分
からずに、なかなか机に向かうことができなかった。
今も答えを見つけれずにいる。
しかし、覚悟を決めた。学ぶことで、学ぶ本物の
意味を理解できると信じている。
時代を超えて、一つ成長できるきっかけを得るこ
とができた。

中二 大橋 広美
2050年までに温室効果ガスの排
出をゼロにする「カーボンニュート
ラル宣言」が行われた。脱炭素社会
の実現に向けた取組があらこちで
行われている。
夏を迎えるたびに、地球温暖化
について考えさせられる。日本は温
室効果ガスの排出量が世界で5番
目に多い国だ。このままでは地球の
未来は危うい。
明るい未来を築くために、今、私
たちにできる取組を考えていこう。

中一 佐藤 和美
拝啓
若葉の緑が目にしみる、ふと春になりました。
皆様にはお変わりなくお過ごしのことと思います。
こちらも家族一同、元気に暮らしております。
さて、先日はたくさんのお手紙をいただきました。
ありがとうございます。毎年のことながら、お心
遣いをうれしく思いました。
最後になりましたが、風邪などひかれませんよう、
お体を大切になさってください。
敬具

第77回書きぞめ展覧会課題

小三 みどし
石神 真大

小四 伝える
長友 万結

小五 美しい空
岸田 万理

小六 強い決意
赤井 修司

中一 早春の花
松本 愛美

中二 美の追求
川口 守夫

中三 郷土の大河
長田 彩香

令和 6 年度

埼玉県連合教育研究会 研究発表

蓮 田 支 部

「書写教育の充実」を目指した授業の展開

蓮田支部

蓮田市立蓮田南中学校 秦

優 人

1 はじめに

本年度、蓮田支部が埼玉県書写教育研究会 書写授業研究会の実施支部となり、令和6年11月28日（木）に、本校1学年2組の教室で、公開授業を行った。

今回、書写の授業の行うにあたり、日常における「字を書くこと」に対する意識を高めること、行書の特徴を理解し書き、身近な文字を「書く」活動に、積極的に役立てられるよう、生徒に意識づけをしていくことを意図し、授業を行った。

2 授業実践

(1) 単元名 「文字生活を豊かに」

(2) 教材名 主教材 「中学書写 一・二・三年」(光村図書)

補助教材 宮澤正明「常用漢字 書き方事典」(二玄社)

(3) 生徒の実態と本単元の意図 ～略～

(4) 単元の目標 ～評価規準参照～

(5) 単元の評価規準

知識・技能	主体的に学習に取り組む態度
- 姿勢や筆記用具の持ち方を正し、書いている。 - 行書の特徴（(1)運筆、(2)筆脈、(3)点画・筆順の変化）を理解し、書くことができる。	- 行書の特徴に気付き、どのように書いたら行書の特徴を生かした書き方ができるか考え、書いている。 - 習得した文字の特徴、書く活動が、どのような場面で生かすことができるか考え、自分の意見をもっている。

(6) 指導計画（本時である「第5時」は、(7) 参照。）

第1時	・筆記用具の持ち方、毛筆の特性、文字の変遷、（行書の特徴）を知る。	大木 北西
第2時	・行書の特性に注意し、「大木」を書き、楷書との違いを知る。	
第3時	・行書の特性に注意し、「北西」の文字を書く。 ・ペアで作品の評価をし合う。	
第4時	・行書の特徴に注意し、「月光」の文字を書く。 ・ペアで作品の評価をし合う。	

(7) 本時について

①本時の目標「行書の特徴に注意して作品を書き、これからの書く活動にどう生かせるか考えよう。」

②評価規準（展開参照）

③展開

	学習活動	学習内容	指導上の留意点・ 評価規準
	1 前時の振り返りを確認する。 2 本時の学習課題を知る。	・前時で書いた作品から、生かせる点、改善点を改めて確認する。 (個人→ペア→全体)	
行書の特徴に注意して作品を書き、身近な文字を書く活動にどう生かせるか考えよう。			
	3 書く準備をする。	Set 筆を正しく持つ。 Check 隣の人の筆の持ち方を認する。 Ready 姿勢を整える。	○指や筆を持つ位置まで細かく見るよう指導する。 ○手の位置も意識させる。
	4 行書の特徴に注意して書く。	Go 「月光」を書き始める。	○行書の特徴を踏まえ、書く速さも意識するように促す。(※1)
学習内容と評価規準 「月」 ①3, 4画目が連続していることに気づき書くことができる。(知技)(主体) ②1画目から2画目の筆脈を意識して書いている。(知技) 「光」 ①1画目の穂先の形。(知技) ②2画目から3画目の筆の動きを意識して書いている。(知技) ③4, 5画目が連続していることに気づき書くことができる。(知技)(主体) ④左に筆を落とした後、6画目にどう繋がるか考え書くことができる。(知技)(主体)			



5 道具を片付ける。

・これまでの学習を振り返る。

6 ワークシートを記入する。

- ①行書の特徴を踏まえ、書くことができたか。
- ②これまでの書写の授業が、どのような場面で生かすことができるか。

月光

7 書写の授業を振り返る。



- (1)五書体の確認
- (2)三年間の書写の授業の見通しを知る。(※2)
- (3)文字を「書くこと」の必要性を考える。→ワークシートに記入。

・これからの生活において、どのような場面で、「書く」活動を生かすことができるか発表する。

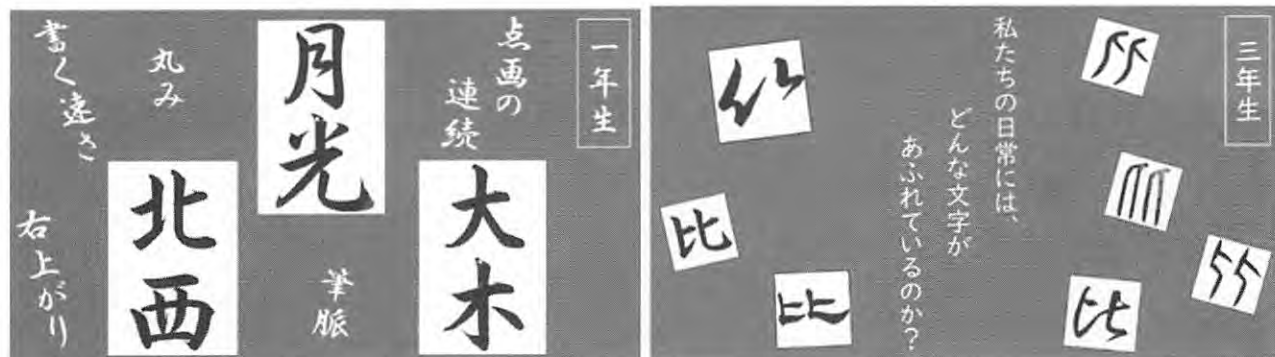
●習得した文字の特徴、書く活動が、どのような場面で生かすことができるか考え、自分の意見をもっている。(主体)

(予想される生徒の反応)

- ・楷書で書くよりも、行書の方が優しいイメージ。お手紙や年賀状を書くときに行書を使って書けば、読み手も嬉しいと思う。
- ・メモを取るときに、楷書にとらわれず行書で書けば、楷書よりも早く書ける。メモに残せる情報量が増える。

(※1) 行書の書く速さについては、前時までに指導を行っている。

(※2) パワーポイントを使用し、以下のようなスライドを作成した。(一部のみ)



3 指導講評

指導者 小原 茂先生

- ・「筆脈」や、「点画の変化」という言葉を生徒が理解し、自ら説明できていた点が良かった。
- ・「Set ～ Go」の流れ、中でも「Ready（書く気持ちを作る。）」が良かった。
- ・書写の授業は「指示」の授業であること。
- ・多くの生徒が筆を丁寧に洗えていた。
- ・教室の掲示物にも手書きの文字であふれており、これからも「手書き文化」を大切にしてほしい。
- ・「上手に」書くと言わず、「正しく」が適切。
- ・設定された目標に、まとめがずれてしまった。評価と目標の一体化を大事にしたい。
- ・書く時間が15分ほどにも関わらず、評価はどのようにして行うのか。
- ・言葉を理解していても、「筆脈」がとれていない生徒が複数名見られた。
- ・文字を書く途中で墨継ぎはしないように。

4 おわりに

今回、「書写授業研究会」を通して、書写の授業の必要性を深く実感した。ご指導にもあったとおり、タブレットやスマートフォンが普及し、「書くこと」が日常生活から減っている現代こそ、手書き文字のもつ「温かさ」を伝えていきたい。

令和6年度

埼玉県書写教育研究会 研究発表

桶 川 支 部

狭 山 支 部

寄 居 支 部

水書用筆を活用した書写授業

桶川市立加納小学校 二階堂 綾 子

1 はじめに

桶川市立加納小学校は、桶川市東部に位置し、伊奈町や上尾市、北本市、蓮田市、久喜市の5市町と隣接しており、児童数は301名である。校庭にはシンボルの大王松がある、自然の多い長閑な環境であり、開校151年目を迎える伝統のある小学校である。

今回の実践報告は小学校2年生での水書指導である。児童は、漢字学習に対しての興味・関心が高く、多くの読み方を知りたい、正しく整った漢字を書きたいという意欲にあふれている。しかし、毎日の連絡帳や学習ノートの文字を見ると、文字が乱雑になったり、とめ・はね・はらいに気をつけて書くことができていなかったりと、書写で学んだことが日常生活の中に十分生かされていない児童も多い。そこで、文字を丁寧に書くことの楽しさ、大切さ、素晴らしさを感じることや、字形の特徴や運筆のポイントに気付き正しく書こうとすることのできる児童の育成を目指して、水書用筆を活用した書写指導を行った。

2 具体的な取組

(1) 概要

実施学年 第2学年

単元名 水ふでで書いてみよう(2時間)

第1時 オリエンテーション

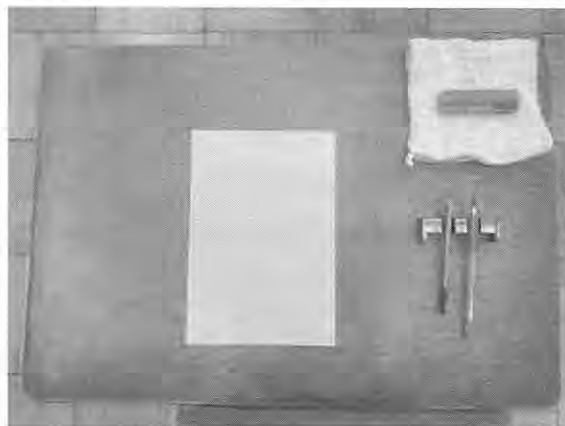
- ・準備片付けの仕方
- ・点画の種類の確認
- ・用具の使い方

第2時 点画の書き方

- ・水書用筆での点画の書き方
- ・終筆の筆使い
- ・鉛筆での点画の書き方

(2) 第1時の授業

水書用筆を使用した指導は、点画の始筆・送筆・終筆(止め・はね・払い)の動作の反復によってそれを体得することがねらいであることから、第1時では用具の準備から配置の仕方、片付けについてや、水書用筆の持ち方、点画の書き方練習に焦点を当てて指導した。児童の目に触れることで確認しやすくなるように、教室や板書の掲示に取り入れて授業を行った。



用具の置き方



水書用筆の
持ち方

みぎはらい

「ぐっ」と止めて「すうっ」
など、音での確認

教科書(光村図書)より引用

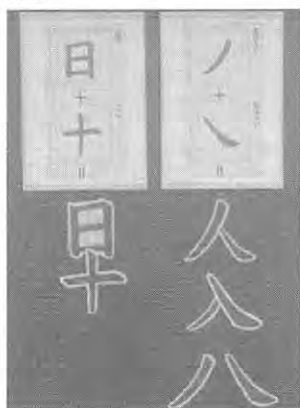
(3) 第2時の授業

単元目標の「点画の書き方(止め・はね・払い)に注意しながら書くことができる。」の点画の書き方を児童一人ひとりがより注意できるようにするための手立てとして、“児童自らが字形の特徴や運筆のポイントに気付き、児童同士で伝え合う活動”を取り入れた。また、正しい運筆で書くことができるようにするために、“水書用筆の使い方を定着させるための運筆練習の時間確保”を行った。

この2つの実践について以下にまとめる。

“児童自らが字形の特徴や運筆のポイントに気付き、児童同士で伝え合う活動”

①漢字パズル



「左払い」と「右払い」を組み合わせることができる漢字と「日」と「十」を組み合わせることができる漢字を考えると、実際に動かせるように用意した。動かしながら文字を作り出すことで、点画の重なり方や位置の違いに気付くことができた。

②違いや注意点の話合い



似ている漢字の違いや書くときの注意点について児童の気付きを発表させた。その際に、手本に赤や青のマーカーで気づきを明確化することで、運筆練習で見返して確認できるようにもなっていた。

“水書用筆の使い方を定着させるための運筆練習の時間確保”

①ウォーミングアップ



水書用具の確認の段階でぐるぐるや波線を書いて水書用筆に馴染ませた。

②点画の書き方の振り返り



点画の書き方を振り返り、運筆の仕方の確認をする段階。運筆をうまく意識しながら書くことができている児童の様子を動画によって見せることで、さらに意識が高まった。

③組み合わせ漢字の練習



違いや注意点の話合い後の練習の段階で、止めや払いを「ぴたっ」「すうっ」の音で表して行うことで正しい運筆への意識が高まった。

授業の流れ

学習活動	学習内容	○指導上の留意点 ☆評価
1 本時のめあてをつかむ。	・ 本時の学習課題	○ 本時の学習課題を明確にし、見通しを持たせる。
「とめ・はね・はらい」に気をつけて、点や画を書こう。		
2 水書用筆の使い方を確かめる。	・ 水書用具の使い方 の確認	○ 鉛筆で書くときと同じ持ち方で水書用筆を持つようにする。
3 水書用筆の使い方に気をつけて、「払い」「折れ」「反り」「点」を振り返る。	・ 点画の書き方を 振り返る。	○ 水書用筆の使い方に気をつけて、「払い」「折れ」「反り」「点」の方向を振り返り、運筆の仕方を確認させる。
4 「左払い」と「右払い」を組み合わせることができる漢字、「日」と「十」を組み合わせることができる漢字を考え、点画の書き方に気をつけて水書用筆で書く。	・ 組み合わせで できる漢字を考え、 水書用紙で書く。 ・ 点画の書き方 「とめ」「はらい」	○ 「左払い」と「右払い」を組み合わせることができる漢字、「日」と「十」を組み合わせることができる漢字を考えさせる。(シンキングタイム) ○ 出てきた漢字の違いや注意点について話し合う。
評価と支援 ☆点画の書き方（止め・はね・払い）に注意しながら、水書用筆で丁寧に書こうとしている。 【知識・技能】（観察・水書用紙） → 取り組めない児童への支援 既習事項を確認したり、一緒に書いたりする。		
5 画の終筆に気をつけて、「八、人、入」「早」を鉛筆で書く。	・ 終筆の筆使い ・ 鉛筆での点画の 書き方	○ 終筆の筆使いの違いに気をつけて、「八、人、入」「早」を鉛筆で書かせる。
6 本時のまとめをする。	・ 学習内容の整理	○ 本時の学習の目標や成果を振り返り、美しい字を書くことの良さを感じさせる。
7 自己評価をする。		○ 水書用筆を使って、点画の書き方に気をつけて書いたか、振り返らせる。

3 おわりに

今回の授業では児童の多くが「止め・はね・払い」を意識して整った字で書こうとしたことが成果であったと言える。また、似ている漢字の違いや書くときの注意点について話し合った時には普段の新出漢字の学習で培われていた字形を見取る力が発揮され、書写だけの学習でなく、他教科の学習との繋がりを感じた。さらに、手本の文字を見て違いや注意点について話し合ったことで、手本に忠実に

書こうとする気持ちも高まっていた。今回の授業ではできなかったが、手本（基準）と自分の書いた文字の比較をし教師から具体的な指摘をしていくことで、児童自身の作品を見る目を高めることにも繋がっていくと感じた。今後はさらに児童自身の見る目を養い、字を丁寧に書く良さを感じられるような書写指導をしていきたい。

美しい文字の特徴を主体的に捉え、自身の書に生かす指導の工夫

桶川市立桶川西中学校 服 部 環 貴

1 はじめに

「書写教育において大切にすべきことは、字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書くこと」であると、中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説に記されている。「字形を整えること」だけでなく、「紙面全体に対して、それぞれの文字の大きさや書くべき位置を考えて調和的に割り当てること」や「文字と文字との間の空け方や行の中心の取り方、行と行の間の空け方などについての具体的な方法や効果を理解すること」が、美しい文字を書く上で重要なことである。

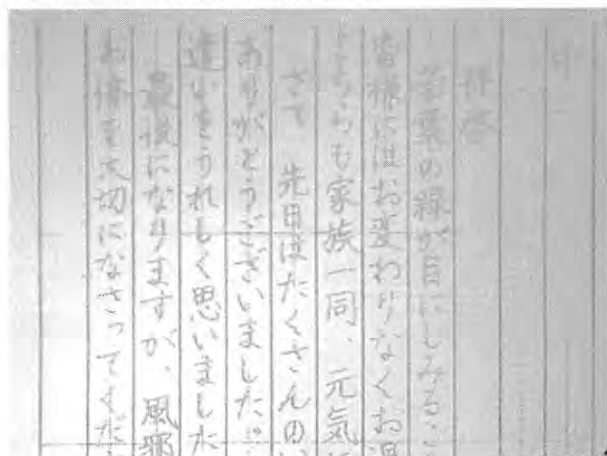
しかし、中学校の書写の授業において、一人一人の文字を教師が見て、改善点を書いたり伝えたりする時間の確保は、例年、課題であると感じている。また、今回担当した 1 学年は 40 人学級であり、目を行き届かせるのは例年よりもさらに難しいと考えた。

したがって、教師主導の指導ではなく、生徒それぞれが主体的に取り組む中で、より美しい文字を書けるようにしていく指導の工夫に重点を置き、以下の実践を行った。

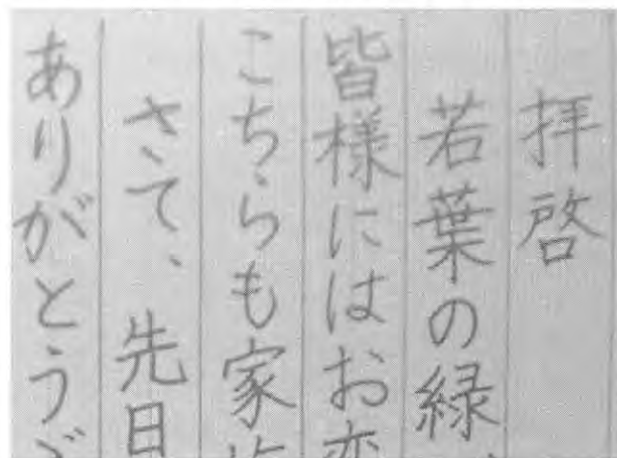
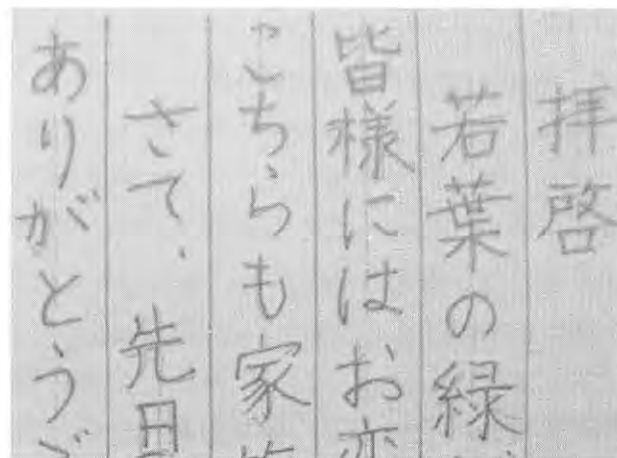
2 主体的に取り組む指導の工夫点

【中学 1 年生 硬筆の取組】

（1）なぞりの比較（第 1 時）



授業の導入として、手本を薄く印刷したものを準備し、それぞれ 7 分間の中でなぞり書きを行った上で、交流の時間を設定した。



同じペン、同じ紙を使用し、なぞり書きであるにも関わらず、文字に差が生じることを実感させた上で、美しく見える文字の特徴を話し合わせた。「細いと弱々しく見えるが、太すぎるのもきれいに見えない」、「太さよりも、濃くてはっきり見える字の方が上手に見える」、「安定した線を書いている人の進捗と、線に差がある人の進捗は違い、特に始筆と終筆に差が見える」など、文字について主体的に考える姿が、どの学級でも見られた。

また、書き方についても交流するように促すと、ペン先の角度や筆圧、始筆、送筆、終筆のポイントを、書きながら確認し合う姿が

見られた。

交流後、もう一度、自身のなぞり作品を確認させ、なぞりからはみ出している部分に注目させた。丁寧に書いているつもりでも、はみ出す部分は自分の書き方の癖が出ている箇所であると伝え、「硬筆の時間のみ意識するのではなく、普段の字にも繋げていきたい」という前向きな感想も多く挙がった。

(2) 名前の確認・練習 (第2時)

例年、名前の手本は教師が書いたり、印刷したりしたものを準備していたが、書写への関心が低い生徒は、なかなか参考にする姿勢が見られない場合も多かった。そこで今回は、名前の手本は自身で作成することにした。

まず練習として、ペンで丁寧に自分の名前を書かせた。その上で、書写の教科書の「常用漢字表」、「人名用漢字表」、「楷書に調和する仮名」等の中から、自分の文字を調べさせた。



一画一画の長さや配置、角度等を見比べた上で、修正すべき箇所をペン字の上から、鉛筆で書き足し、字形を捉えさせた。

その後、手本の名前の横に自分の名前を書かせた。教科書の字をよく見て、配置や大きさを考えながら、鉛筆で何度も書き直して名前の見本づくりを自身の手ですることによって、美しく丁寧に名前を書く意識が全体的に高まったように感じる。

【中学校1年生 書きぞめの取組】

(1) 事前準備

書きぞめでは、美しい文字を書くための正しい筆運びを体得することが重要であるが、「紙面全体に対して、それぞれの文字の大きさや書くべき位置を考えて調和的に割り当てること」という点に重点を置くことで、上達速度は上がると考えた。そこで、始筆や終筆の位置が、よりわかりやすくなるように、手本に下敷きと同様の補助線（名前は中心線）を入れた。

さらに、中心線付きの名前を準備し、それらを一字ごとに切り離し、「早春の花」にかぶらない位置かつ全体としてのバランスがよい位置に貼り付けさせた。



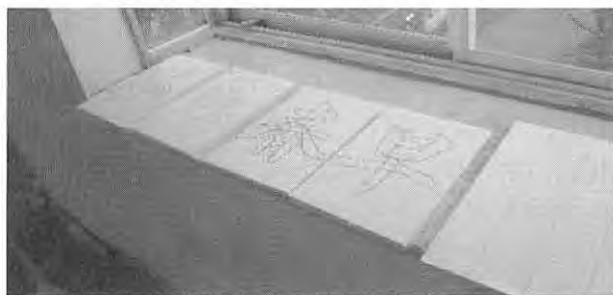
(2) なぞりによる運筆や字形、太さ等の確認と、筆のウォーミングアップ

行書を書く際のポイントは、書きぞめの導入で伝えるが、多くの生徒が初めて行書に挑戦する1学年の書きぞめだからこそ、言葉だけの説明だけでなく、実際に書いて、楷書との違いを理解させたい。

そこで取り入れたのが、なぞり書きである。



「早」「春」「の」「花」
それぞれの字の
一画一画の流れがわか
るなぞり書き練習用紙
を用意した。



事前準備後の第2時では、この用紙を用いて、行書の筆運びを学ばせていった。

生徒たちは、最初は慎重になぞるため、普段乱雑に筆を扱ってしまうような生徒も、丁寧に書こうとする姿勢が見られた。また、始筆の角度や行書の「払い」の特徴を捉えることや、余白が出ないようにそれぞれの画に応じた太さを出すことに前のめりに取り組む姿が見られた。さらには、筆運びがわからない生徒たちが、それらを改善しようと、自ら教えを求めてくる場面も増加した。



第3時以降は、実際に画仙紙に個人のペースで作品を書いていったが、その時間の初めには必ず、なぞり書き用紙を最低1種類は「筆のウォーミングアップ」として取り組ませた。



いきなり画仙紙に書くのではなく、筆に墨をしっかりと馴染ませることや、筆運びを確認させることによって、最初の作品の質が大きく変わっているように感じた。



3 おわりに

今回の実践では、生徒が美しい文字を主体的に探究し、書けるようにする工夫に重点をおいて研究をした。手本の補助線やなぞり用紙の作成など、準備に一工夫を入れると、生徒の「より美しい字を書きたい」という思いは高まり、書写の授業に主体的に取り組む生徒が増えたことは大きな収穫であった。

また、書写の教科書を有効的に活用すると生徒は想像以上によく調べることが分かったため、生徒の興味関心を高める手立てとして今後もうまく取り扱っていきたい。

ICTを活用した書写授業の展開

狭山市立南小学校 坪井和美

1 はじめに

本年度、狭山市書写研究部の授業研究会の担当となり、令和6年11月12日（火）に本校の井口涼子教諭が公開授業を行った。

今回、書写の授業を行うにあたり、2つの意

図をもって授業を行った。平仮名の教材特有の「穂先の動き」や「線と線のつながり」に気をつけて書くこと。もう一つはICTを活用した書写授業を展開することである。

2 授業実践

第5学年2組 国語科（書写）学習指導案

1 単元名・教材名 穂先の動きと、線のつながり「あこがれ」

2 児童の実態と本単元の意図 ～ 略 ～

3 単元の目標 ～ 評価規準参照 ～

4 単元の評価規準

知識・技能	主体的に学習に取り組む態度
①穂先の動きと線と線のつながりについて理解して書いている。((3) エ (イ)) ②用紙全体に対する文字の大きさに気をつけて、配列を整えて書いている。((3) エ (ア))	①進んで平仮名の書き方を確かめながら、学習課題に沿って、線と線とのつながりに気をつけて書こうとしている。

5 指導と評価の計画（全3時間扱い） ～ 略 ～

6 本時の学習指導（本時1／3時）

（1）目標

○穂先の動きについて理解して書くことができる。 〈知識及び技能〉（3）エ（イ）

（2）評価規準

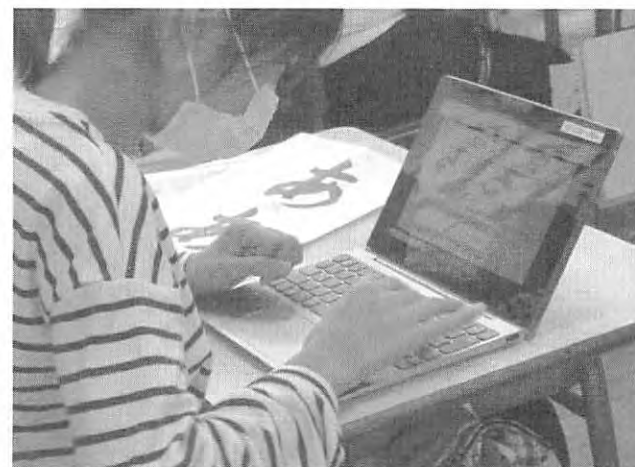
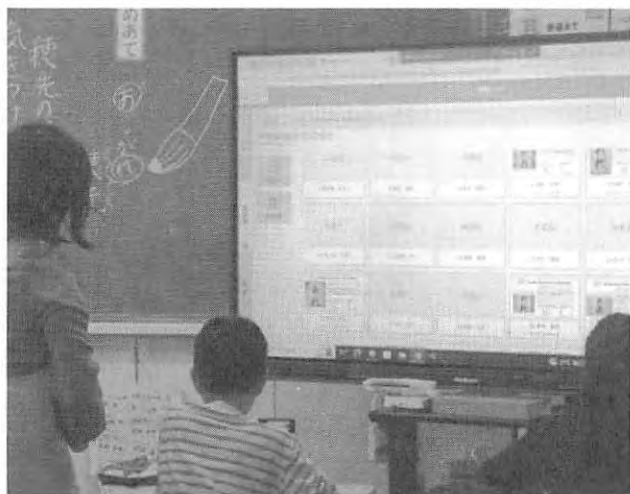
○穂先の動きについて理解して書いている。 【知識・技能】

（3）展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 本単元の教材文字を確認する。	○『あこがれ』 ○「穂先の動き」 「線と線のつながり」	○本単元の教材文字は、『あこがれ』であるが、第1時には「穂先の動き」に焦点化した学びができるように「あ」と「れ」、第2時には「線と線のつながり」に焦点化した学びができるように「こ」「が」、第3時には、まとめ書きとして「あこがれ」を練習することを伝え、見通しをもって学習が進められるようにする。	3
2 動画を視聴し筆使いを確認する。	○平仮名の書き順	○穂先に少しだけ朱墨をつけ、「あこがれ」と書く様子の動画を視聴させることで、穂先の動きや向きに注目できるようにする。	2

3 「あ」と「れ」を書く様子の動画を視聴し、話し合う。	○『あ』『れ』	○「努力を要する」(C) 児童への手立てとして活用する『あ』と『れ』を書く様子の動画を全員で視聴し、『あ』の3画目の軽く止め、ゆっくりと左上へと上げる筆使いや『れ』の「折り返し」の筆使い、『あ』『れ』の筆の軸を回さないで方向を変える筆使いに気付かせるようにする。	7
4 本時のめあてを確認する。	○「穂先の動き」		3
めあて 穂先の動きに気をつけて書こう。			
5 「穂先の動き」に気を付けて練習する。	○「穂先の動き」に気を付けた書き方	○穂先がどこを通過しているかを確認しながら、それぞれの練習用紙に書くようにする。 【知・技①】 練習用紙 ・穂先の動きに特徴がある『あ』の3画目や『れ』の2画目の筆使いに気を付けて書いている児童を、B評価とする。 〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉 ・Teams「書写」のチャンネルに投稿されている『あ』や『れ』を書く様子の動画を視聴し、始筆や終筆の穂先向きや『あ』の3画目、『れ』の2画目の穂先の動きを確認してから練習に取り組むように助言する。また、一緒に動画を視聴し、その特徴を確認する。	15
6 練習用紙の1枚をICT端末のカメラ機能を活用して撮影する。		○半紙の大きさを意識して縦長の画面で、真上から撮影するように促す。	5
7 自己の練習用紙画像に朱書きを入れ、振り返りをする。	○「穂先の動き」に気を付けた練習ができたかの確かめ	○自分の作品を肯定的に見るために朱書きは、3箇所を目安に行うように指導する。課題となる部分だけでなく、めあてが達成できたかどうかを視点として朱書きをするように促す。 ○自分でめあてが達成できたかどうか判断すること(朱書きすること)が難しい児童は、近くの友達に自分の練習用紙画像を見せ、助言を求めても良いこととする。	7

8 本時のまとめをする。	○本時の学習で身に付いたことや、第2時や第3時の「まとめ書き」に生かしたいことなどについて考えられるようにする。 ○本時のめあてに沿って、振り返りができている児童の発表をもとに、まとめをする。 まとめ 「あ」の3画目の筆使いや「れ」の2画目の筆使いが難しかった。 「あ」の3画目は、軽く止めてからゆっくりと左上にあげると上手に書けた。 「れ」の「折り返し」は、1度止めてから書くと上手にできた。 「あ」も「れ」も方向を変えるときは、1度止めてから書くよい。 軸を回さないで書くことができるようになった。	3
---------------------	---	----------



3 指導講評（抜粋）

（狹山市教育委員会教育長職務代理

古谷 弘明先生）

- ① 授業のねらいを補う
子供が持っているイメージだけでなく、教師が言葉にして教えることが大切。
- ② 準備、書く時の姿勢
書写の授業は週に1回しかないので、毎時間言い続けるようにする。
- ③ 練習について
練習の「ねらい」が明確であるかを確認する。本時の練習は20分であったが、十分確保できていた。
- ④ 振り返り
具体的なめあて、指導事項が「言葉」で出ていると、児童のふりかえりの言葉もより具体的になる。

例 △「けっこう うまくできた」

→本時で上手く書くことはめあてとしていない。

○めあてにそって書くことができた。

→どのように筆を使ったのか、気を付けたのかまで書けたらさらによい。

4 おわりに

「穂先の動き」や「線と線のつながり」に気をつけて書くことを意識するために、自作の動画を作製した。動画を見て、穂先の動きに気をつけようとする意識を高めることができた。

また、ICTを活用することは、児童の作品と振り返りが共有でき、学習の積み重ねもでき、有効であった。

今後もICTを適切に活用しながら、書写授業を展開していきたい。

教材提示装置を使った授業の展開

狭山市立山王中学校 古 内 和 弘

1 はじめに

本校では、特別に書写の時間をとっておらず、1学期の市内硬筆展・2学期の市内書きぞめ展のタイミングで書写の時間を展開している。おそらく中学校は本校と同じ現状におかれていると思う。また、書写の授業に充てられる時間も限られており、各学年ともに硬筆・書きぞめそれぞれ5時間前後ずつになるのが現状である。また、普段の生活において筆に触れる機会がなかなかない現状がある。

以下は、本校で行っている実践の一つである。

2 具体的な取組

そのような中で、硬筆への取り組みとして挙げられるのは、「教材提示装置」の活用である。本校では、各教室に1台ずつ置いてありいつでも活用できる状態にある。これを教室の大型テレビに接続し、書写の時間内常時つないでおく。装置の位置は、担当教師の右側に置き、教師の手の動きや文字の書き方を見られるようにしている。近年は、中学1年から手本が「行書」になっており、生徒にはあまりなじみがない。特に、画数の多い漢字や特殊な崩し方をする文字は、クラス全体に書いて見せる必要が出てくる。

そこで、①担当の教師が硬筆作品を書く様子を常時テレビに映し、生徒が作品を作るうえで参考にしてもらう。②教師の書いた作品は、次時に説明に使用し、名前を含めた作品全体のバランスや行書の流れの確認のために使用する。

このように、書きぞめ指導でもそうであるように実際に書く様子を見せることは、生徒にとってとても参考になることである。また、硬筆指導において生徒が難しく感じるのは「氏名」の書き方である。この点については、硬筆作品の評価において名前の書き方が大きな要素となるので、教師が全員の生徒の氏名を

朱書きして渡すことが必要であると思う。また、生徒の作品については、必ず校内展を開き良質な作品を展示することも必要と考える。書きぞめにおいても状況は変わらない。現在一番の課題は書写を行う場所の確保である。本校は幸い連続した2つの空き教室が確保できるが、学年によっては2つの教室が取れず、生徒は階をまたいでの移動となる。落ち着いた環境の中、ゆったりとしたスペースで書写ができるといいと思う。

3 成果と課題

はじめに書いたとおり、普段の生活において筆に触れる機会がない現状がある。これを改善する方策として、本校では次のような筆に触れる機会を設けている。

①筆ペンを使う漢字プリント

年間40枚前後の新出漢字プリントを書かせている。その際、新出漢字を大きな文字で教師が下書きをし、その文字を生徒が筆ペンでなぞる。このプリントは、1枚に10字ほどの新出漢字と用例を10回書くようになっている。このようなことで筆ペンをもつ機会を設けている。

②水書パネルによる漢字解説

週1回のペースで漢字テストを行っているが、テスト返却の際に間違いの多い漢字や形のとりにくい漢字を、筆順を含めて水書パネルに筆を用いて教師が書いて解説をしている。これにより、筆遣いや字のバランスのとり方も生徒に示すことができる。

4 おわりに

中学校の現状は、書写の時間数の問題を含めあまり良いとは言えない。しかし、生徒に時期に応じて書写に触れさせ、関心を持たせることは大事だと思う。これからも、他の時間も使いながら様々な書写教育をしたい。

小学校低学年の水書指導について

寄居町立桜沢小学校 和田 志 織

1 はじめに

本校は、昨年度開校150周年を迎えた伝統のある小学校である。近くには駅や公共施設、公園などがあり、豊かな環境の中にある。

本学級の児童は、漢字練習や作文など文字を書く学習に意欲的に取り組んでいる。しかし、自分が読めればいいと、「丁寧に文字を書く」ということについての意識が低い児童が多い。そのため、「とめ、はね、はらい」が身につけていない児童が多くいる。

そこで、水書指導を取り入れることで筆圧の変化を体感させ、文字の細部まで意識して書くことができるようにさせたいと考えた。

2 具体的な取組

(1) 正しい姿勢、筆記具の持ち方

読みやすく整った文字を書くためには、姿勢と筆記具の持ち方を正しくして書くことが必要である。背筋を伸ばした状態で体を安定させ、書く位置と目の距離を適度にとり、筆記具を持ったときに筆先が見えるようにするため、「ゲー・ペタ・ピン」の合い言葉を使って指導した。筆記具の正しい持ち方については、「OKサイン」を合い言葉に、人差し指と親指と中指の位置、鉛筆の軸の角度などを意識させてきた。書写の時間だけでなく、文字を書く時はいつも合い言葉を使って正しい姿勢と持ち方を意識させた。



(2) 水書

水筆は、鉛筆と違って弾力があり「はらい」や「はね」などの力を抜く感じがわかりやすい。また、水筆は鉛筆と同じ持ち方で行うため、日頃の取り組みの延長で行うことができ、低学年でも扱いが簡単である。時間がたつと消えてしまうので、失敗も残らずに楽しく興味



を持ちながら取り組むことができた。鉛筆で試し書きをした後に、水筆で練習し、鉛筆でまとめ書きを行った。

(3) ICTの活用

教科書のQRコードを使い、動画で運筆を確認した。動画を活用することで手元がわかりやすく、興味をもたせてから活動に入ることができた。

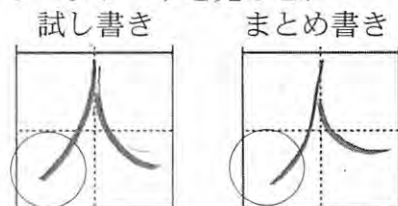


3 おわりに

児童の振り返りを見ると、

- ・水で書ける鉛筆だと、何回も書けるからうまくなってうれしかった。
 - ・はらいが苦手だったけど、上手になって楽しかった。
 - ・とめ、はね、はらいがもっと上手になりたい。
- と、達成感を感じ、鉛筆のときよりも集中して学習に取り組めていたことがわかった。

また、ワークシートを見ると、



はらいの太さが同じだったところが、先が細く鋭くなり、水筆を使ったことで、力を抜いて書けていることがわかる。この児童は日頃からはらいが苦手だったが、水筆を使ったことですぐに感覚をつかむことができた。

水筆はすぐに消えて何度も書いたりすることができるので、意欲をもって学習に取り組み、1時間の中でも上達を実感できる児童が多かった。また、水筆では「とめ」「はね」「はらい」の筆使いがはっきりするので、指導にも効果的であった。

しかし、水筆を使う時に上の方を持ち浮かせながら書いている児童がいたので、鉛筆のように手を紙につけながら正しい持ち方で書くということを徹底させていきたい。

書写の時間だけでなく、日頃の書く活動の中でも「とめ・はね・はらい」の細部まで意識して丁寧に書けるように、この取り組みを続けていきたい。

ICTを活用した書写の学習指導

寄居町立男衾小学校 橋 本 遥

1 はじめに

近年、各教科において ICT を活用することが求められている。書写の学習で ICT をどのように全体指導や個別指導で活用すればよいのか考えた。ここでは、担当学級でおこなった事例を報告する。

2 具体的な取組

(1) 硬筆での活用

硬筆の学習では、望ましい芯の形を電子黒板に提示した。その際、お手本となる硬筆用鉛筆を持っている児童のものを映した。

また、お手本を拡大したものを電子黒板に提示し、始筆や字のバランスなど気をつけるポイントを指導した。

(2) 毛筆での活用

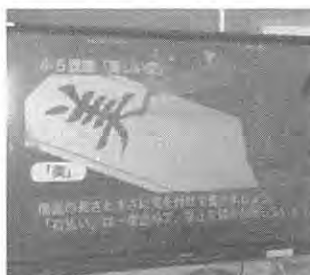
毛筆の学習では、教科書にある QR コードを活用した。まず、拡大したお手本を提示し、始筆やはね方等のポイントを指導し、児童のお手本に書き込ませた。そして、書き方の手本となる動画を電子黒板で提示した(資料1)。その際、先程指導したポイントを一時停止して再度確認しながら動画を視聴した。



資料1 【電子黒板に提示した動画】

(3) 書きぞめでの活用

第1時でお手本に記載されているQRコードを活用した(資料2)。全体でポイントを確認し、拡大したお手本に書き込ませた。その後、QRコードを読み取らせ、動画を見ながら、毛筆や指でお手本をなぞり書きさせた(資料3、資料4)。第2時以降では、動画で確認しながら練習したい児童にタブレットを用意させ、練習させた(資料5)。



資料2 【電子黒板に提示した動画】



資料3 【毛筆でなぞり書き】



資料4 【指でなぞり書き】



資料5 【動画を見て練習】

3 成果と課題

(1) 成果

動画で視覚的に点画の筆使いや文字の組み立て方を何度も確認できたため、児童が練習する際の補助として有効であった。

(2) 課題

今回の実践では、全て個人活用と全体活用だった。今後は、学び合いでの活用も実践していきたい。

はじめての毛筆、指導のくふう

寄居町立鉢形小学校 田 島 浩 子

1 はじめに

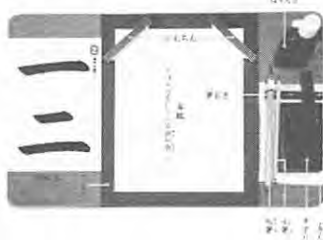
本学級は、男子21人女子14人合計35人のクラスである。4月から児童は、毛筆用具の扱い方から始め、基本の点画の「横画」「縦画」「はらい」「折れ」「はね」について学習してきた。児童が書写の知識や技能を無理なく習得しながら、毛筆学習に親しめるようにスモールステップで学習を進めてきた。

2 学級での具体的な取組

毛筆の学習をするにあたって、一人一人のワークスペースが狭く、机間指導がスムーズに行えない。また、筆を床に落としたり墨をこぼしたりして、周りの児童に迷惑をかける恐れがあった。その為、一斉授業だけでなく学習サポーターのサポートにより、教室を二つ使うなどし、以下の手順で授業を行ってきた。

(1) 準備

- ①机のフックに掛けてある道具を少数教室に移動する。
- ②紙ばさみを机の左側にかける。
- ③道具を準備する。
- ④バッグは、机の右側に掛ける。
- ⑤お手本と半紙3枚を廊下で、教師からもらう。(児童の動きは、教室の前のドアから出て、後ろのドアから教室に入る。)
- ⑥墨液を入れる。(墨液の量の目安は、500円玉〇枚分の指示を出す。)



(2) 書き始める前に

- ①よい姿勢を合い言葉で確認する。(ゲー・ペタ・ピン)



- ②筆の持ち方を確認する。
- ③動画(教育出版書写3年)を活用して、筆使いを確認する。(ICTの活用)
- ④動画を見た後、掲示したお手本を見ながら運筆のリズムを音声化(どん・ぴたっ・すうっ等)する。



(3) 書く

- ①1時間目…本時の文字の筆使いに気をつけて書かせる。振り返りをする。
- ②2時間目…本時の文字の筆使いに気をつけ、字形を整えることを意識させて書かせる。書き上がった作品を見比べ、一番よく書けた作品を選ぶ。振り返り評価シートに記入する。作品を提出する。
- ③3時間目…硬筆の学習をする。毛筆で学習した筆使いを生かして書くよう指導する。よい姿勢や鉛筆の持ち方を確認する。



(4) あとかたづけ

- ①書いた紙は、紙ばさみにはさむ。
- ②硯に残った墨は、墨バケツに入れる。
- ③筆と小筆は穂先を整えてから、サララップで包んでから、筆巻きにしまう。筆は家に持ち帰り洗う。



3 おわりに

1時間の授業を計画的に進めるためには、児童が準備からあとかたづけまで活動の動線をしっかり確保することで成り立つことがわかってきた。

3年生時に基本をしっかり身に付けさせ、「集中したら上手く書けた。」「楽しい。」と、子供たちに思わせることを目指して指導していきたい。



中学校硬筆における ICT 活用について

寄居町立寄居中学校 堀 芳 貴

1 はじめに

本校1学年の生徒は、授業のノート等を見ると丁寧な字を書くという意識が高い生徒が多い。一方で、美しい文字の条件まで意識できている生徒は少ない。

生徒は、小学校在籍時からICTを活用した指導を受けており、タブレットの使い方に長けている生徒が多い。そのため、タブレットを活用し、各自が硬筆における重点を理解できる授業になるよう指導方法を工夫した。

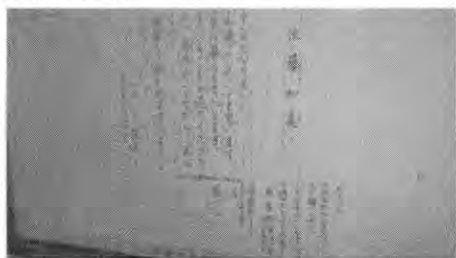
2 具体的な取組

(1) モニターの活用

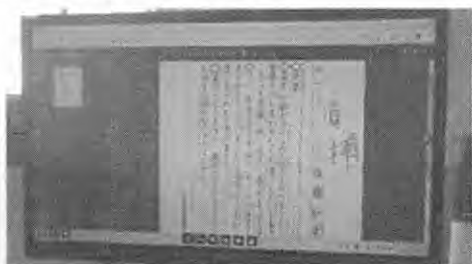
生徒への硬筆指導において、文字のポイントを理解させることは最も重要である。

本授業では、まず黒板に「硬筆のポイントを押さえよう」というめあてを設定した。その後、「力強く書く」や「中心をそろえる」等、作品全体に関わるポイントを確認した。

モニターには、事前にスキャンし、データとして取り込んでおいた手本を表示した。適宜拡大して、書く際に注意すべきポイントを赤字で記入しつつ、問いかけ等を交えて解説を行った。



モニターに表示した手本と解説は、授業中そのまま表示しており、生徒が各自確認できるようにした。また、字形がとれない、集中できない生徒には、モニターにはどう書いてあったかという声かけをし、顔を上げさせて見せることで、集中力等の切り替えや、本時のめあての再認識を行った。



(2) タブレットの活用

硬筆や書きぞめは、生徒1人1人の作品を仕上げる速度に大きな違いが生じるという特徴があげられる。

一文字ごとのポイントをしっかり理解した上で書き始める生徒や、まずは作品を1つ書いてから自分の作品と手本を比較し、次の作品へ生かす生徒など、1つの作品に取り組んで完成させるプロセスに差が生じる。

そのため、手本に作品作成のためのポイントが書き込んであるデータを「Microsoft Teams」の中に事前に投稿しておき、生徒が個々に自分のタブレットで確認できる環境を作った。



3 おわりに

普段から美しい文字が書ける生徒がいる一方で、硬筆を始める際に「普段の文字もうまく書けないから硬筆も書けない」等の声も聞こえた。

これを踏まえ、今回は硬筆を書くポイントを全体で確認した後に、個別にタブレットでいつでも字形等を整える際のポイントが見られる環境を作った。

生徒の活動としては、紙の手本で全体のバランスを学び、タブレット上でポイントを認識した。または、拡大などをして、細かい字形の確認を行っている様子が見えた。

今後も、ICT等を活用し、個別最適な学びとなるようさらに手段を模索していきたい。

中学校硬筆 ～鑑賞会を通して自分の作品に自信をもたせる～

寄居町立城南中学校 大澤 尚子

1 はじめに

本校二学年の生徒は、硬筆の授業を通して少しでも文字を美しく書きたいという意欲をもって授業に臨み、集中して作品を作ることができる。一方で、自分自身の書く文字に自信がもてない生徒が少なくない。

そこで、相互にそれぞれの作品のよい部分を探し、発表し合うことで、自分自身が書く文字に自信をつけさせたいと考えた。

2 具体的な取り組み

(1) 行書の特徴、書写用語等の指導

楷書と行書の違いや、横書きで文字を書く際のポイント、文字の中でも特に気をつけて書く部分などを、書写用語を用いながら説明することで、作品を書く際に意識することを指導する。

(2) 作品作り

毎時間、授業の最初に、さらに美しく作品を仕上げるためのポイントを、書写用語を交えながら解説する。

(3) 鑑賞会

自分が作成した作品の中で一番完成度が高い作品を一枚選び、班ごとに集める。集めた作品を他の班と交換し、班ごとでそれぞれの作品のよい部分を、書写用語を使って指摘し合う。モニターには事前にスキャンしておいた作品を写しだし、担当することになった作品のよい部分を、書写用語を使いながら説明する。(必ず一人一作品は発表を担当する。)最後に振り返りを行い、鑑賞会を通して気づいたこと、考えたことを文章にまとめる。

3 成果

今回の鑑賞会を通して、自分の作品のよかった点を他者から発表してもらうことで、自分の書く文字に自信をもてるようになった生徒が増えた。

また、書写用語を使って作品の良さを発表することにより、具体的な良さを指摘できるようになり、今後、文字を書くときにポイントを意識しやすくなったと考えられる。

<生徒の振り返りより>

・自分ではわからない他の人の作品の良さが今回の発表でわかりました。書写用語の使い方もよくわかったのでよかったです。

・みんながそれぞれの作品のよいところを見つけてたくさん褒めていたところがよいと思いました。私もよかったところを生かしてこれからも丁寧に書きたいと思います。

・いろいろな人の字を鑑賞することで、自分にはない良さを見つけることができた。発表を聞いているときに自分では見つけられなかった所を見つけれられていてすごいと思った。

・みんなしっかりと作品のいい点を、書写用語を使って説明していた。廊下に張り出された作品を見て、いい点を見つけてみたい。

4 おわりに

今回の授業を通して、自信をもって文字を書けるようになった生徒や、他の人の作品の良さを探してみたいという生徒が増えた。

美しく文字を書くことへの興味・関心を今後も高めさせていきたい。



ICTを活用した書写授業の実践

寄居町立男衾中学校 山下 柊 羽

1 はじめに

本校2学年の生徒は、楷書と行書の違いを理解することができている。しかし実際に書いてみると、行書のポイントを押さえて書くことができないという生徒も多い。

今回、一人一台端末を活用した授業実践を行った。手元にタブレットを用意し、書きぞめ手本に掲載されている「見本用動画」を必要に応じて再生・停止できるようにした。また、よく書けた生徒の作品を写真撮影し、クラスで共有することで、自身の作品の改善を図った。

2 授業実践

行書を書く上で押さえないポイントは運筆を意識することである。従来の指導では、黒板に貼った画仙紙や水書板に教員が書いてポイントを教えるのが一般的であった。

しかし、手本が一度しか示せなかったり、生徒の席によっては見えにくかったりするなどの欠点があった。今回、書きぞめの手本に掲載されている「見本用動画」は、生徒の好きなタイミングで再生や停止、倍速などの再生設定をすることができた。生徒は自身の書くスピードに合わせて再生速度を調整したり、一度書いたところをもう一度再生したりすることで、運筆のポイントや苦手を感じている文字の書き方を確認することができた。



次に、書きぞめや硬筆では個人の作業が多く、「対話的な学び」や「深い学び」がほとんどなく終わってしまうという実情があった。そこで、ポイントを押さえて書くことができる生徒の作品を撮影し、よい点や意識してほしいところを写真に書き込み、「Microsoft Teams」で共有をした。生徒が他者から学ぶことで、自身の作品の改善を図ったり、Teamsに掲載された生徒に声をかけたりすることで、対話的で深い学びが実現できた。



3 おわりに

筆で文字を書く場面は人生において、決して多いものではない。しかし、筆を使って文字を書くよさや筆でしか表現できない言葉のよさなどもある。

今後も ICT を活用した書写教育を推進していくとともに、行書と楷書の違いを知った上で、時や場合に応じて使い分けられる生徒の育成をしていきたい。

埼玉県書写教育研究会役員表

役 員	氏 名	勤 務 校 名
顧問	荻 田 哲 男	文 教 大 学
顧問	小 原 茂	入間市立野田中学校 (長)
顧問	柳 下 政 浩	さいたま市立原山小学校 (長)
会長	大 澤 美和子	加須市立大越小学校 (長)
副 会 長	関 根 祐 介	杉戸町立杉戸中学校 (頭)
常 任 理 事	三 上 陽 照	所沢市立北野小学校 (頭)
"	伏 谷 洋 美	狭山市立広瀬小学校 (再)
"	山 田 悦 子	ふじみ野市立駒西小学校 (諭)
"	鈴 木 美 紀	加須市立不動岡小学校 (諭)
"	中 島 和 子	桶川市立桶川西小学校 (再)
"	秋 野 眞由美	さいたま市立城北小学校 (諭)
"	尾 形 成 子	越谷市立蒲生南小学校 (諭)
"	小 林 久美子	熊谷市立熊谷東小学校 (諭)
"	鯨 井 佳 恵	熊谷市立新堀小学校 (諭)
"	松 井 直 美	坂戸市立坂戸小学校 (諭)
"	吉 村 真菜美	本庄市立中央小学校 (幹)
"	川 島 有紀子	久喜市立桜田小学校 (諭)
"	松 永 秀 則	蓮田市立黒浜西中学校 (再)
"	大 林 千 恵	所沢市立安松中学校 (諭)
"	福 田 英 正	ときがわ町立玉川中学校 (諭)
"	宮 崎 奈 々	さいたま市立春里中学校 (諭)
監 査	越 智 宏 明	さいたま市立大原中学校 (長)
"	佐 藤 智 恵	蓮田市立平野小学校 (長)

埼玉県書写教育研究会 研究集録

*発行者 会長 大澤 美和子

*編集委員 大林 千恵
吉村真菜美

*発行日 令和7年3月10日

*印刷所 ㈱三光堂印刷所